



学び合い 認め合い 高め合う学校 ～子ども、学校、家庭・地域がつながる南小～

南小だより

令和8年9月30日(水) 第6号

校長 河野 裕一

【学校教育目標】

やさしく (徳) かしく (知) たくましく (体)

【10月の生活目標】

本をたくさん読もう

「自分で選ぶ」ということ

この夏に参加した研修で、あるランドセル会社の広告動画を視聴する機会がありました。興味深い内容でしたので、その概要をご紹介します。

そこでは、数名の子供たちが色とりどりのランドセルが並んでいるショールームと思われる場所でランドセルを選んでいきます。真剣な表情で、慎重に、よく考えながら。保護者はその様子を別室のモニターで見ながら「ピンクが好きだから、多分ピンクを選ぶと思います。」「汚れが目立たなそうなベージュにして欲しいです。」などの思いや願いを口にします。そして子供たちが選んだランドセルは、概ね保護者が予想していた通り、ピンク色や黒色などでした。それを見て「やっぱり。」「よかった。」と納得したり、安堵したりする保護者。

しかしその時、保護者にあるメッセージが手渡されます。

「選んでもらったのは、自分が欲しいランドセルではありません。保護者の方が選んで欲しいと思うランドセルを選んでもらいました。」



驚く保護者とは対照的に、子供たちは「ママはね、ピンクがかわいっていつも言うから。」「かっこいいからパパが好きそうかと思った。」などと子供なりの理由をはっきりと答えています。次のメッセージが渡されます。

「次は本当に使いたいランドセルを選んでもらいます。」

子供たちは再び同じ場所に現れ、目を輝かせながらランドセルを選びます。選んだランドセルは、ピンク色ではなく水色、黒色ではなくピンク色など、どれも保護者が驚くものばかり。でもどの子供も嬉しそうです。自分たちが思い描いていたものとは違っているものの、嬉しそうな子供たちの姿を見て、保護者も笑顔になります。子供が自分で選んだことを否定せず、「本人がこんなに喜んでいるなら」と、我が子の成長を感じながら温かく見守っています。

子供たちは、大人が思う以上に、周りの人の思いや願いを感じ取っています。最初に選んだランドセルにも、保護者を喜ばせたいという優しさが表れていました。同時に、本当に使いたいランドセルを選んだときの表情からは、「自分で選ぶこと」の喜びが伝わってきます。

自分で選ぶことは、自分がどうしたいのかを考え、自分なりの一歩を踏み出すことです。そうした選択の積み重ねが、これからの自分を形づくっていきます。そして、自分で選んだものだからこそ愛着がわき、自分で決めたことだからこそ、やってみようという意欲も生まれます。

そのためには、子供が大人の望む答えを探すのではなく、自分の思いや考えをもとに選べる場が必要です。

学校では、学習面や生活面において、どのように取り組むか、考えをどう表すかなど、子供たちが自分で選べる場面を大切にしていきます。ご家庭でも、子供の「私はこうしたい」に耳を傾けていただければ幸いです。

引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本記事やその他について、ご意見やご感想がありましたら、以下の URL にアクセスするか、

二次元コードを読み取ってご記入ください。お待ちしております。<https://forms.gle/CGjqH7xA3Z5PDoe28>



学力・学習状況調査（全国・埼玉県）の結果及びその分析について



本年度実施された全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査の結果がまとまりました。これらの調査は、子供たちの学力や学習に対する意識などを把握し、今後の授業や学校での取組をよりよくするためのものです。個人の結果についてはすでに各ご家庭にお知らせしておりますが、本校の結果とその分析、今後の取組についてお伝えします。

【全国学力・学習状況調査】

小学校6年生と中学校3年生を対象とした調査で、4月に実施しました。小学校の調査教科は国語と算数です。この調査は教科の学習状況に加え、児童質問紙調査を通して学習への取組や生活の様子も把握できる点が特徴です。

本校の平均正答率は国語、算数ともに全国平均を上回っています。しかし、数値だけにとらわれることなく、子供たちのよさや課題、学習状況にも目を向けて分析しました。

<国語>

文章を読み、内容を自分の経験と結び付けて考える力に成果が見られました。しかし、自分の考えと、それを支える理由や事例とのつながりを捉えることには課題があります。今後は、文章のどこを根拠に考えたのかを確かめながら、話したり書いたりする学習を充実させていきます。

<算数>

基礎的な知識・技能や図形の特徴を捉え、体積の求め方を考える力に成果が見られました。しかし、表から複数の条件に合う数を正しく読み取ることや、式の意味を説明することには課題があります。図、式、言葉を結び付けて考えを伝える学習を今後も大切にしていきます。

<児童質問紙>

友達との話合いで考えを深め、協力して学ぶことに多くの児童が前向きに取り組んでいます。また、自分にはよいところがあると感じたり、先生が自分のよいところを認めてくれると感じたりする児童も多くいます。引き続き、学び合うことのよさを実感できるようにするとともに、日頃の声掛けを大切に、一人一人が安心して学べる環境づくりを進めます。

【埼玉県学力・学習状況調査】

小学校4年生から中学校3年生を対象とした埼玉県独自の調査で、5月に実施しました。この調査は、教科の学習状況や学習への取組に加え、「学力の伸び」が見えるようになっている点が特徴です。

ここでは、紙面の都合上、「学力の伸び」についてお伝えします。

<学力が伸びた児童の割合>

※4年生は今年度からの実施のため、伸びに関するデータはありません。

	国語	算数
5年生	84.4%	67.5%
6年生	69.2%	67.7%

5年生、6年生ともに、多くの児童が着実に学力を伸ばしており、日々の学習の積み重ねが成果として表れています。一方で、児童一人一人に目を向けると、伸びる時期や速さは同じではないことも分かります。今回伸びが見られなかった児童については、どこでつまづいているのか、どのような学び方が合っているのかを丁寧に捉えることが大切です。

学校では、調査結果に加え、授業中の発言やノート、日々の取組なども見取り、一人一人に合った課題につなげていきます。つまづいたところは学び直し、得意なことはさらに伸ばせるよう、授業を工夫していきます。また、友達と考えを伝え合い、学んだことを振り返る時間を大切にします。そして、児童がこれまでの自分と比べて「どれだけ成長できたか」に気付き、自分の伸びを実感して次の学びに向かえるよう、指導・支援を続けていきます。

ご家庭では、返却された個人調査票をもとに、よいところや、これから努力が必要な点を一緒に確認し、お子様自身が自分に合った目標を立てられるようご支援いただければ幸いです。

